



扇小だより

考える子 思いやりのある子 強い子

令和6年度 第24号

開校50年目

9月10日 児童数756名

入間市立扇小学校

救急の日と思う

学校長 村越 新

9月9日は、「**救急の日**」です。昨日夕方のニュースでも、救急の日の取り組みが紹介されていました。

私たちは、**さいたま市で起こった事故**を忘れてはいけないと思います。今でも、さいたま市のHPには、次の文が記載されています。



さいたま市教育委員会では、学校における組織的・実践的な危機管理体制の万全を図るため平成24年4月に「さいたま市立学校児童生徒事故等危機管理対応マニュアル作成指針」を作成しました。この指針は、平成23年9月29日、市立小学校6年生の児童が、駅伝の課外練習中に突然倒れ救急搬送された後、翌30日に死亡するという事故を受け、学校管理下の危機事案に対するそれまでの「緊急時対応マニュアル作成例」の見直しを図り、作成したものです。

各学校では、指針に基づき、自校の危機管理対応マニュアルの見直し、改善を図るとともに、傷病者発生時対応訓練等を実施することで組織的な危機管理体制を確立してきたところです。

昨日のニュースには、明日香さんの母親が出ていました。「あの時AEDを使わなかったが、いつ使うのか。明日香に使ってほしかった。二度とこのような事故を起こしてほしくない」とのコメントが流れました。

本校にも、救急対応マニュアルがあります。毎年見直しをして、各教室に常備しています。マニュアルには、以下のことが書かれており、全教職員で確認しました。

●平常時の取り組み ～危機発生を未然に防止することが重要である～

- ・事故が発生する可能性の把握、対策の検討
- ・情報伝達や、関係機関との連絡を効果的に行うための連絡体制の整備 など

●危機発生時に適切な対応 ～重大事故の未然防止～

- ・健康観察の徹底
- ・保健室環境の整備（保健室備品、衛生材料の整備） など

●危機発生時 ～児童生徒等の安全の確保を最優先に考えて行動する～

- ・指揮命令系統を明確にして対応する。校長は、指揮命令者として、対応する
- ・迅速に情報収集、記録、伝達を行う など

9月9日の「扇っ子へのメッセージ」

今日、9月9日は「救急の日」です。「救急」とは、ケガや病気などに急になった**人の命を助ける**こと。

今から十年くらい前、埼玉県さいたま市立小学校6年生のアスカさんが、駅伝の練習中に倒れ、**次の日に死亡**するというたいへん悲しい事故が起きました。近くにいた誰かが**AED**を使ったり、**人工呼吸**などを行ったりすれば、アスカさんの命は救えたとも言われています。

昨日の夕方のニュースでは、小学校で救急の訓練をしている様子が流れていました。アスカさんのお母さんの言葉、「AEDを使ってほしかった。二度とこのような事故が**起きてほしくない**」というコメントもありました。

アスカさんの命を無駄にしないように、事故があったときの対応「**ASUKA モデル**」は、全国の多くの学校で参考にされています。

扇小学校でも「救急」についてしっかり考え、訓練を受けたり、マニュアルを作ったりしています。

8月27日 避難訓練後の話

今日の避難訓練は、どうでしたか？

放送をよく聴き、先生の指示に従って、真剣に取り組むことができていましたね。地震や火事は、いつ起こるか分かりません。**自分の命**を守るために、必ずしなければならないのが、防災訓練です。

「**おかしもは**」の合言葉を、一つずつ言えますか？ 「押さない」「かけない、走らない」「しゃべらない」「戻らない」「離れない」です。これらの約束を、本番の避難の時にしっかりできるようにするには、**毎日の学校生活**が大事です。

授業中に、先生や友達の話**を黙って聴く**こと、廊下は静かに**右側を歩く**こと、全体で集まるときは、**口を閉じる**こと。これらはすべて、命を守るための訓練になります。

誰の命を守るためでしょうか？ 自分だけではなく、**周りのみんなの命を守る**ためです。避難するとき、自分がおしゃべりをしていたら、先生の指示を周りの人も聞けなくなります。自分が走ってしまったら、自分が転ぶだけでなく、周りの人にぶつかって、周りの人が逃げ遅れてしまいます。

いつ起こるか分からない地震や火事に備えて、「おかしもは」の合言葉を、**いつでも守れるように**、毎日の生活の中でしっかりできるようにしておきましょう。